

東京国際空港（羽田空港）の新しい滑走路（D滑走路） ～ジャケット製作工場（JFE千葉工場）製作・出荷完了～

トピックス

国土交通省は、我が国空港ネットワークの拠点空港として極めて重要な位置を占める東京国際空港（羽田空港）において、新たに4本目の滑走路となる『D滑走路建設工事』について、平成22年10月末の滑走路の供用開始を目指し、24時間365日の昼夜連続施工により最速で工事を進めています。

今般、平成21年11月21日（土）、D滑走路栈橋部の土台となる鋼製のジャケット製作工場として稼働していた2つの一体大組立工場（新日鐵エンジニアリング富津工場、JFEエンジニアリング千葉工場）のうち、JFEエンジニアリング千葉工場での製作が全て完了し、同工場での最終ジャケット（90基目）の出荷が完了しました。

JFEエンジニアリング千葉工場では、ジャケット総数198基のうち90基のジャケット製作を担当し、同ジャケット製作のために新規に整備した工場として、平成19年4月から平成21年11月までの約2年8ヶ月間、ジャケット製作に没頭しました。

なお、新日鐵エンジニアリング富津工場では、現在もジャケットを製作中です。最終ジャケットは来年1月下旬頃出荷予定となっており、この出荷をもってすべてのジャケットの製作、出荷が完了します。

（参考）

ジャケットは、格子状構造の鋼桁部分（上部ジャケット）と鋼管部材をトラス状に組み立てた構造物（下部ジャケット）からなり、上部ジャケットを新日鐵エンジニアリング若松工場、JFEエンジニアリング津工場、三菱重工横浜工場で作成した後、海上運搬し、一体大組立工場にて製作した下部ジャケットを溶接により、一体化させ1基のジャケットとするものです。

今回のジャケット製作では、上部ジャケットについては、航空機の輪荷重を考慮した首溶接部（鋼板最大板厚75mm）、レグトップの完全溶込溶接、下部ジャケットについては、疲労を考慮した鋼管部材同士の完全溶込溶接、また超音波試験による品質管理（溶接延長約1km/基）といった、溶接分野において非常に高品質の確保を要求された厳しい製作プロセスを経ています。

平成21年11月25日（水）

国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所

D滑走路プロジェクト推進室 橋梁課：押田・三浦
栈橋課：吉田・近藤

住所 東京都大田区羽田空港3-5-7 メンテナンスセンターアネックス 5階

電話 03-5756-6580

HP <http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/haneda/>

JFE千葉ヤード施工状況

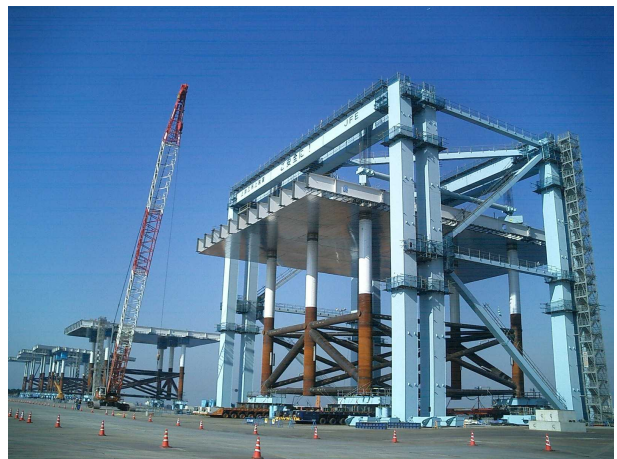
下部ジャケット施工状況



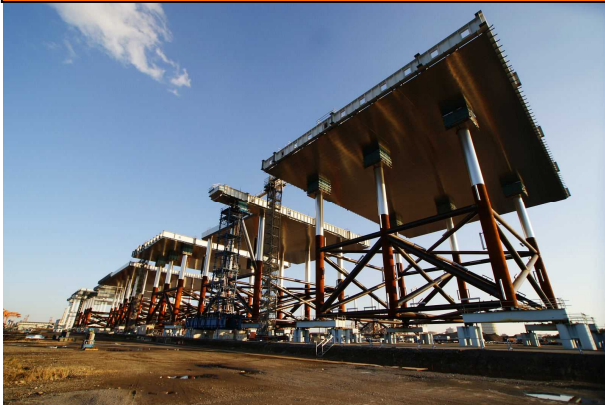
上部ジャケット搬入状況



ジャケット一体化施工状況



ジャケット完成状況



ジャケット出荷状況

